

平城遷都1300年祭

1. はじめに

奈良県は、東西78.6km、南北103.4kmと南北に長い県で、日本のほぼ中央部、紀伊半島の真ん中にあり、四方を大阪府・京都府・和歌山県・三重県に囲まれた内陸県です。県内には、全国最多となる3つの世界遺産や全国第3位の豊富な国宝・重要文化財のほか、豊かな自然環境など世界に誇れる「本物」の財産があり、ユーラシア大陸の東端、中国や朝鮮半島の東に位置し、古代にはシルクロードの東の終着点として、遠くアジア・ヨーロッパとの交流がありました。

2. 平城遷都1300年祭の開催

本年は、日本の本格的な首都「平城京」が誕生して1300年という節目の年にあたります。この平城京の時代には、政治・経済・社会のさまざまな分野で国家としての基礎が築かれ、中国や朝鮮半島を玄関口にユーラシアの文化がシルクロードを経て



せんとくんと遣唐使船

日本に届き、絢爛たる天平文化が開花しました。その国号としての「日本」も国際社会で認知され、今ある日本の礎の多くはこの時代に創られました。

奈良では、日本の歴史・文化が連綿と続いたことを祝い、感謝し、将来に向けた願いを発信する祭事として、平城遷都1300年祭を開催しており、県内各地では、それぞれの地域のさまざまな特性を活かした新しいイベント・行催事が行なわれ、また各社寺では、秘宝・秘仏の特別公開や特別講話が数多く開催されています。

また、メイン会場である平城宮跡会場では、4月23日に文化庁において復原整備が進められてきた第一次大極殿の完成記念式典及び祝賀会が開催され、翌24日から5月9日には宮跡各所を花と緑で飾る「花と緑のフェア」、8月20日から27日には宮跡の夜を光と灯りが奏でる「光と灯りのフェア」を実施するなど、天平時代の姿に思いを馳せることのできる魅力的な空間を演出してまいりました。

今後も引き続き、県内外でのさまざまなイベント・フォーラム等を実施するとともに、10月8日に、平城遷都1300年祭のメインイベントとして記念祝典を国内外から多くの方々をお招きして盛大に開催いたします。また、翌9日から11月7日ま



大極殿

奈良県知事 荒井 正吾



では、古代行事の再現や大極殿・東院庭園でのスペシャルステージを中心とした「平城京フェア」を実施いたします。

3. 東アジアとの交流

平城遷都1300年祭の開催とともに、国家形成期に多大な恩恵を受けた東アジア諸国への感謝の気持ちを込めた、幾つかのプロジェクトをスタートさせています。

まず、歴史を未来に活かし、日本と東アジアが目指すべき進路を構想する「みろく弥勒プロジェクト」です。100人を超える国内外の有識者で議論が進められており、すでに「NARASIA」と題した二冊の書籍にその成果がまとめられています。本年末には東アジアの本来と将来の設計図を描く「平城京レポート」として集大成される予定です。

次に、「東アジア地方政府会合」です。奈良に日・中・韓、ASEAN諸国及びインドの地方政府が定期的集まり、直面する課題の解決に向けて、

何かを決めるために主張し合うのではなく、忌憚のない意見交換によって「知」を学び合う新しい会議の試みです。

そして、東アジアとの交流が盛んであった時代の歴史そのものを展示する取り組みです。本県が率先して東アジアの観光交流を拡大することで、長い友好の歴史や共通する価値観の再発見などを通じて、市民間の相互理解を深めていただきたいと考えています。

また、東アジアの「学知」を継承・創造するため、学生や研究者、企業人等が自由に集い、多様な文化を生んだアジアの叡智を共有できる「東アジア共同キャンパス」のような仕組みづくりを構想しています。これにより、単位互換や人材の質の保証などが国際的に実現できれば、東アジアの価値観を持ちつつグローバルに活躍できる人材が育成できると期待しています。

4. おわりに

平城遷都1300年祭を一過性のものに終わらせることなく、奈良県の観光を持続的に発展させるため、各行催事を通じて、私たち一人ひとりが「おもてなしの心」を実践・学習し、好評だった点、改善を要すべき点など、次に活かせる情報を関係者が共有する仕組みを確立しながら、国の内外から観光客が集う、魅力的な観光地奈良の実現を目指して取り組んで参ります。皆様には、ぜひ奈良にお越しいただき、本当の奈良の魅力を体感していただきたいと思います。



観光客で賑わう大極殿